

## 趣旨

地方運輸局等が地域公共交通確保維持改善事業(以下「確保維持事業」という。)の二次評価を実施するに当たり、本会議を通じて学識経験者等から助言を受け、確保維持事業の事後評価を充実し、地域における確保維持事業の取り組みが効果的・効率的に推進されることを目的として、地域公共交通に知見を有する学識経験者等の有識者委員と運輸局委員で構成し設置するもの。

## 概要

日時:令和6年2月20日(火) 13:00~17:10

場所:オンラインでの実施

委員(敬称略、五十音順) 高山 純一(公立小松大学大学院) ※座長  
佐野 可寸志(長岡技術科学大学大学院)  
高瀬 達夫(信州大学工学部)  
西館 有沙(富山大学教育学部)  
柳澤 吉保(長野工業高等専門学校)  
吉田 樹(福島大学人文社会学群)

## 審議案件

- ①地域間幹線系統確保維持事業(新潟県地域公共交通活性化協議会)
  - ②地域内フィーダー系統確保維持事業(魚津市公共交通活性化会議)
  - ③地域公共交通調査等事業(茅野市・原村地域公共交通活性化協議会)
  - ④地域公共交通バリアフリー化調査事業(小千谷市移動円滑化促進協議会)
  - ⑤新モビリティサービス推進事業(長岡市都市地域公共交通協議会)
- ※離島航路事業(へぐら航路株式会社を予定していたが、令和6年能登半島地震により中止)

委員御指摘概要

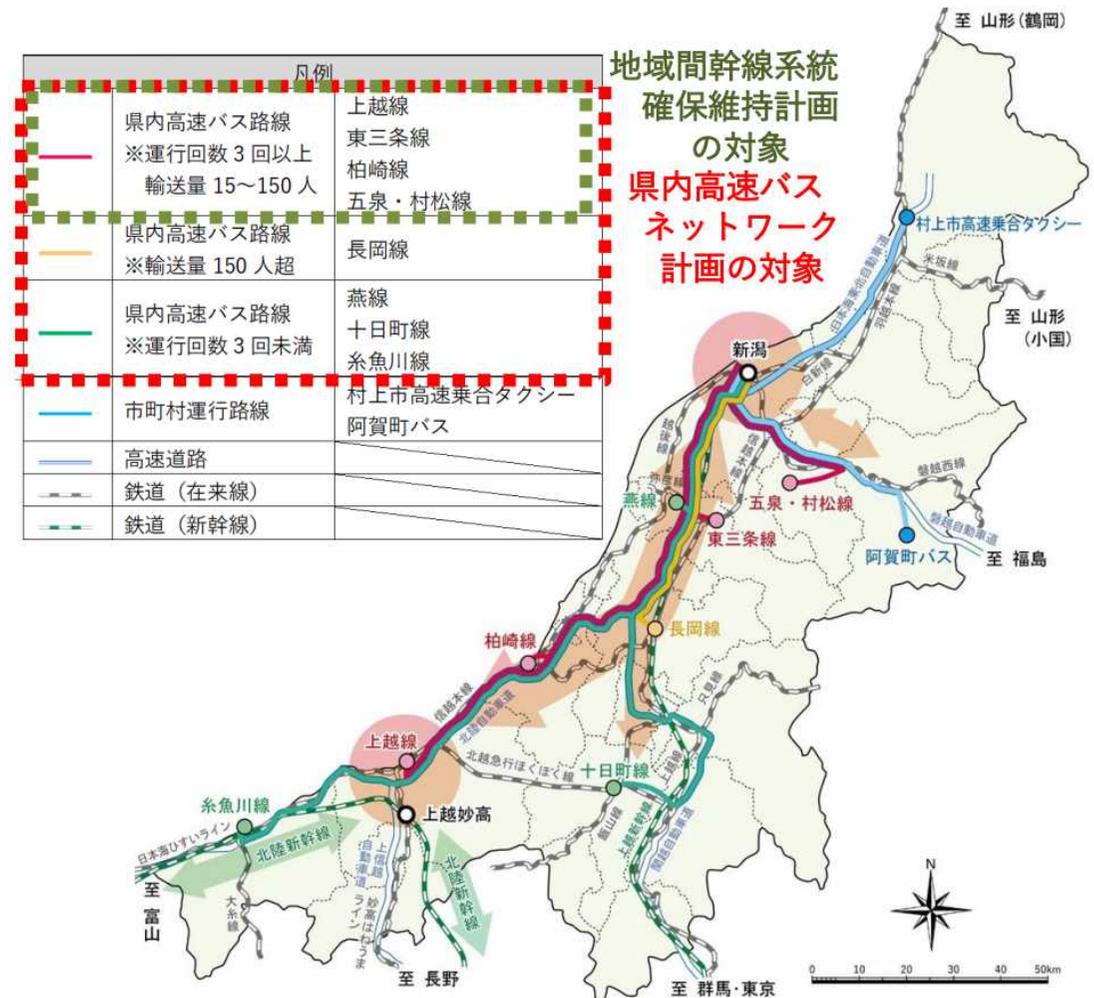
＜①地域間幹線系統確保維持事業添付資料＞

- 地域間幹線系統と各自治体の支線の関係について、各自治体との地域交通ネットワークの連携や、地域間幹線系統と接続していない自治体との広域的な連携について取り組んでいくことが重要。
- 高速バスを幹線系統にするという取り組みは良いと考える。高速バスのブランディング効果の検証も行っていくことが必要。
- ホームページについてQ&Aに車椅子の乗車について記載があるが、バリアフリーに関する情報がしっかりと記載されていない。利用者を広げるためにも待合所がバリアフリー化しているか、杖を使用されている方が乗れるような仕様になっているか等の記載していくことが必要。
- 東京～新潟などの県外高速バスはかなりの数が走っていると思う。今後、難しい部分ではあるが長距離バスの活用について、議論していくことが必要。

県の取組

○新潟県では、県内高速バスを地域の価値を高め、QOLを確保するためのツールとして捉え、官民一体となって、県内高速バスを中心とした都市間高速ネットワークのあり方を検討してきました。  
○令和4年度に県内高速バスネットワークによる広域交通体系の目指す将来像や取組を示す「新潟県県内高速バスネットワーク計画」を策定し、持続可能で利便性の高い交通ネットワークの実現を目指しています。

○県内高速バス路線



## 委員御指摘概要

### <②地域内フィーダー系統確保維持事業添付資料>

- 小学生・中学生・高校生の利用者数を収集しているがこれだけでは通学で利用しているのか、それ以外の理由で利用しているのか分からないので、どんな目的で利用しているかを確認することが重要。
- 利用者が事前予約をしなければならない区間があり、松倉ルートでは全利用者の1/3の人が事前予約を行っている。予約をしなければならないという手間が利用者の減少に繋がっている可能性があり、状況を把握することが必要。
- 色々な路線が重なっているので、朝夕は駅等を目的地と一本で繋ぐとしても、利用者の少ないところや中心市街地は、循環バスで回すなど整理を行うことが必要。
- 事業効果として学生の利用が多く、朝は利用が多いが帰路は少ない事になっている。部活動の終わりの時間帯の把握など、帰宅に適したダイヤの設定・検証していくことが必要。

フィーダー路線の詳細①（上野方ルート）			
運行便数	月～土 12便	中学校通学利用	あり
利用者数	12,709人/年、3.31人/便	小中高校生利用者数	3,677人/年、28.9%
予約区間	あり	予約区間の利用者数	47人/年、0.4%
利用特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数は、平成28年度から大きく減少している。</li> <li>・中学校の通学でも利用があり、小中高校生の利用率も高くなっている。</li> <li>・利用については、サンプラザや大阪屋本江店といったショッピングセンターやスーパーでの乗降が一番多くなっている。次に魚津駅での乗降が多い。</li> </ul>		
フィーダー路線の詳細②（松倉ルート）			
運行便数	月～土 12便	中学校通学利用	あり
利用者数	6,329人/年、1.80人/便	小中高校生利用者数	1,434人/年、22.7%
予約区間	あり	予約区間の利用者数	2,105人/年、33.3%
利用特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数は、平成28年度から大きく減少している。</li> <li>・小中高校生の利用の割合が多く、全体の利用の約3割を占めている。</li> <li>・予約区間の利用者数の割合も高く、全体の3割を占めている。</li> <li>・利用については、サンプラザやMEGAドンキといったショッピングセンターでの乗降が最も多くなっている。次に魚津駅、電鉄魚津駅での乗降が多い。</li> </ul>		

魚津市地域旅客運送サービス継続実施計画
<b>事業効果（西布施ルート・片貝ルート）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>従来と同等のサービス水準を提供</b> 日曜及び祝日については他のルートと同様、運休日とすることで事業の効率化を図ったが、沿線地域と連携した利用促進策に取組、一定の効果ができていると捉えている。</li> <li>一方、課題として <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>日中便の利用者が少ない</b></li> <li>・ <b>両ルート共に学生利用率が高い</b>が、<b>帰路の利用者が少ない</b> ことが分かっている。</li> </ul> </li> <li>今後も沿線地域振興会とも協議を行い、更なる利用促進に取り組みながら、他ルートとのダイヤの重複等を見直ししながら、事業の効率化を図り持続的な運行を目指す。</li> </ul>

委員御指摘概要

＜③地域公共交通バリアフリー化調査等事業＞

- 杖を使用されている方は歩行の問題だけではなく、杖を置く場所があるかどうかも課題の一つとなっている。杖を落としてしまうと自力で拾うことができない方もいるので、仮の杖置き場を設置するなどの検討が必要。
- 高齢者・障害者だけではなく、子育て家庭にとってのバリア解消の考慮も必要。
- 雪が積もった際のバリアについて、障害者・高齢者・妊婦以外の通常の人でも雪が降ると駅のアクセスがしづらくなるので、駅のロータリーの融雪・無積雪化について検証していくことが必要。
- 駅前に送迎車両が来ることが障害者の方にも使いやすいし大事。小千谷駅の構造だとバス停が非常に良い位置にあるが、普段の時期から駅舎側通路にしっかりと寄せて止めることができない構造なのではないか。通常の交通機能も含めて駅前広場の交通の処理をどうするかを考えていくことが重要。

■ 指摘箇所の状況



- まち歩き点検で出た主な意見
- ・ 歩道から車道にかけての勾配がきつい
  - ・ グレーチングの目が粗く車いすの前輪が引っかかる
  - ・ 舗装材の劣化、点字ブロックの劣化
  - ・ 駅スロープの傾斜がきつい
  - ・ 駅トイレの出入口の有効幅が狭い
  - ・ 駅トイレ方面への誘導がない
  - ・ 駅ロータリーへの歩道の傾斜が大きい(約8%)
  - ・ 歩道端部に雨水流入防止の段差がある(5~6cm)
  - ・ 駅駐車場の車いす利用者スペースから駅舎まで遠い 等

委員御指摘概要

＜新モビリティサービス推進事業(地域交通データ化推進事業)＞

- ダイヤ変更時にGTFS-JPもGTFS-RTも生成し直す必要があり、継続的に保守委託が必要になる。ただ、導入することにより事業者の窓口のお問い合わせ件数が減るので、事業者負担がどれだけ軽くなったかも一つのベンチマークとしてみていくことが必要。
- 非常に便利なシステムになるが、各市町村で全て1から開発すると費用がかさむ。ダイヤが変わればデータ更新の必要があるが、県の方で主導するなど広域で展開できれば、一括での保守委託ができ、スケールメリットも得られる。広域での活用について検討していくことが重要。
- 長岡駅の大手口案内所が4月になくなったが、あれだけの規模と乗り場のあるところで全く案内がなく、案内所に用がある場合、反対の東口まで行く必要がある。デジタルサイネージの活用など、うまくフォローしていくことが必要。

事業の概要

■経路検索、バスロケーションの拡充

バスロケーションシステム「ながおかバスi」

平成24年度～運用（事業者：株式会社両備システムズ「Bus-Vision」）



クリック

18時すぎ  
センタープラザ前から長岡駅前へ  
向かう便を検索  
→稼働している3便が該当

「1」の便については、中島7丁目  
(3個前)のバス停を通過したことが  
わかる

地図上で、どこらへんを走って  
いるかわかる (GPS)

■GTFSデータの整備

R5「新モビリティサービス事業推進事業」補助金 を活用

ながおかバスiの機器更新に合わせて  
GTFSデータを整備

(株)両備システムズへ業務委託

- ①通信機の交換 (FOMA→LTE)
- ②GTFSデータ整備

補助金を充当 (1/2)  
※地域交通データ化推進事業  
バス位置情報配信システム構築業務

